日ラグ協発第 16-195 号
平成 28 年 6 月 2 日

関東ラグビーフットボール協会
会長　水谷　眞　様
関西ラグビーフットボール協会
会長　坂田　好弘　様
九州ラグビーフットボール協会
会長　森　重隆　様

(公財)日本ラグビーフットボール協会
専務理事　坂本　典幸

「競技規則第 19 条　タッチおよびラインアウト」についてのルーリング 2016-1 (競技規則の確認) ＜通達＞

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。
貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

パリセブンズにおけるウェールズ対イングランド戦後の議論を受け、ワールドラグビーのセブンズ・ハイパフォーマンス・レフリーマネージャー、パディ・オブライエン氏が、以下に記す事例について、指定メンバーによる競技規則の明確化を求めた。なお、この事例については、5 月 14 日に実際に起きたシーンの映像を下記のリンクにて参照できる:
https://worldrugby.app.box.com/s/w77vx8532iik1ybxsah4k2530dv794zw

17 対 12 でイングランドがリードしていて、イングランドボールのラインアウトの間に、試合終了を知らせるホーンが鳴った。ボールが投入されたがまっすぐではなかったので、レフリーがノットストレートをコールしたが、試合終了時間となったので、レフリーはウェールズにスクラムを与えず、試合終了の笛を吹いた。以下に記す 2009 年の指定メンバーによるルーリングでは、このレフリーが正しいことが示されている:

ルーリング 2009-3

状況 1

レフリーは試合時間に対する責任を委任することができるが、事実、および、競技規則の唯一の判定者は依然レフリーであり、試合は、レフリーの笛によって終了する。

競技時間内に組まれたスクラムが崩れたとする。レフリーは、競技規則 6.A.8 (g)に従って、笛を吹かなければならない。最初のスクラムは終了しておらず、競技規則 20.4 (g)に従ってもう一度スクラムを組ませる必要がある。従って、試合は続行され、競技規則 5.7 (e)に従って、次にプレーが停止した時点で終了する。

状況 2

ラインアウトが終了した後、ボールが確実にデッドとなる反則があったので、レフリーが試合を終了したため、競技規則 5.7 (e)に従って、試合は終了する。

現在の指定メンバーに対し、以下の考え方に従って、このルーリングの見直しを求める:

競技規則は、ラインアウトの終了には 6 通りあると詳述しており(競技規則 19.9 (b))、ボールがまっすぐに投入されなかったというのは、その中に含まれていない。コーチや私の見解としては、それならばラインアウトはまだ終了していなく、スクラムが与えられるまで、または、反則をしなかった側が自分達でボールを投入するラインアウトを選択するまで、試合を終了することはできないのではないか。

レフリーが、故意にボールがまっすぐ投げ入れられなかったとみなしたならばペナルティキックとなるが、今回のケースは、そう考えるには理由が不十分である。

競技の利益のためにも、競技規則 19.10 として、以下を追加することを提案したい:

競技規則 19.10

ラインアウトの不完全な終了

ラインアウトは、まっすぐでない投入では終了しない。反則をしなかった側には、自分達でボールを投入するラインアウト、または、ラインオブタッチから 15m のスクラムの選択肢を与えられる。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

指定メンバーがこのルーリング要請を検討した結果、上記の解釈が正しい。

以上